

平成27年度 大阪高等学校 学校評価

1 めざす学校像

1927年(昭和2年)、旧制中学校として創立以来、「知育・徳育・体育の調和のとれた全人教育」を追究すると共に、時代の変化を見据えた新たな教育目標である「未来へ、世界へひらく自己の確立」を掲げ、ユニークな進学校を目指します。

- ①学力を多面的に捉え、向上を図る ②進路観を掘り起こし、希望進路の実現を図る
- ③学校行事・部活動の充実を図る ④基本的生活習慣の確立を図る

目指す学校づくりとして

1. 学習活動と特別教育活動の両面を充実させ、人間的成長と希望する進路の実現を図る学校
2. 生徒・保護者および地域から愛され、信頼されるとともに、安心で安全な学校
3. 広報活動を充実させ、より多くの中学生・保護者に理解いただき、支持を頂ける学校

2 中期的目標

1 学び続ける力の育成

- (1) 学力の向上に取り組む
- (2) 指導力の向上に取り組む

2 問題解決力の育成

- (1) 大高文化創造の柱として学校行事の充実に取り組む
- (2) より一層の生徒会執行部活性化に取り組む
- (3) 部活動の充実を図り、大高への帰属意識を高めることに取り組む
- (4) ルール遵守を基盤に学習集団についての育成に取り組む
- (5) 女子生徒指導のあり方追究に取り組む

3 選択する力の育成

- (1) 進路実現のための学習を乗り越えた幅広い学習に取り組む
- (2) 興味関心を深め、自学自習を楽しむ学習に取り組む
- (3) 社会的・職業的に自立するための学習に取り組む

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成27年11月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○「自己評価」に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全家庭に保護者アンケートを郵送、無記名回答。回収率94.3% ・生徒は2学期期末試験最終日にアンケートを実施。教員はアンケート配布、回収。 <p>○満足度</p> <p>「大阪高校に入学して(させて:保護者)よかったと(評価してくれると:教員)思いますか」</p> <p>生徒:肯定評価の割合:全校生徒=76.7% 1年=76.7% 2年=77.4% 3年=75.9%</p> <p>保護者:肯定評価の割合:全保護者=85.6% 1年=85.3% 2年=88.0% 3年=83.8%</p> <p>教員:肯定評価の割合:75.7%</p> <p>○進路</p> <p>「(保護者の目から見てお子様は:保護者)(生徒は学校生活全体を通して:教員)自分の将来と結びつけて今なすべきことを考えられるようになりましたか(なっていると思いますか:教員)」</p> <p>生徒:肯定評価の割合:全校生徒=72.2% 1年=70.8% 2年=69.6% 3年=76.2%</p> <p>保護者:肯定評価の割合:全保護者=70.6% 1年=65.7% 2年=68.2% 3年=77.9%</p> <p>教員:肯定評価の割合:61.4%</p> <p>○行事</p> <p>生徒:学校行事を通じて、目的意識を仲間と共有したり、達成感を感じたりすることができますか</p> <p>肯定評価の割合:全校生徒=76.2% 1年=76.1% 2年=76.2% 3年=75.0%</p> <p>保護者:学校行事が充実しており、行事について様々な工夫や姿勢が強く感じられますか</p> <p>肯定評価の割合:全保護者=76.8% 1年=76.9% 2年=78.5% 3年=75.1%</p> <p>教員:本校は学校行事が充実しており、行事についての様々な工夫や姿勢が生徒や保護者に伝わっていると思いますか。</p> <p>肯定評価の割合:74.3%</p> <p>○学習</p> <p>生徒:自分なりの目標や課題をもって、日々の授業や家庭学習に取り組んでいますか</p> <p>肯定評価の割合:全校生徒=63.0% 1年=62.3% 2年=62.4% 3年=64.6%</p> <p>保護者:学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げていると思われませんか。</p> <p>肯定評価の割合:全保護者=67.1% 1年=65.1% 2年=67.1% 3年=69.3%</p> <p>教員:本校は学習指導が充実しており、学力向上に十分な成果を挙げていると思いますか</p> <p>肯定評価の割合:67.3%</p> <p>○共生</p> <p>「高校生活にふさわしい規律ある生活、マナーを守った集団生活を自分は送れていると思いますか」</p> <p>生徒:肯定評価の割合:全校生徒=76.9% 1年=77.6% 2年=77.5% 3年=75.7%</p> <p>「保護者の目から見てお子様は(生徒は学校生活全体を通して:教員)、立場の異なる相手の意見にもしっかりと耳を傾けるようになりましたか(なっていると思いますか:教員)」</p> <p>保護者:肯定評価の割合:全保護者=77.5% 1年=76.7% 2年=77.4% 3年=78.3%</p> <p>教員:肯定評価の割合:69.1%</p>	<p>第1回</p> <p>昨年度の活動を経ての今年度の方針、私学ならではの発展性を感じる。職員会議で校長が報告された「目指す学校像」「4つの柱」「3つの観点」から中期目標の提示、そしてそれらを受け、各部署で具現化と落とし込みが始まるサイクルは重要だ。</p> <p>各部署の具体的な方針も生徒たちの成長に通じるポイントを外していないと感じる。</p> <p>学力だけでなく、生きる力や生きるための知恵を心意気も含めて学ぶのが教育。当然ながら小学校から大学まで一貫して追及すべきものだ。その時代の中、大阪高校が選択する力の育成を掲げているのは素晴らしい。先進的な取り組みだと評価できる。</p> <p>第2回</p> <p>「学校評価アンケート」の結果説明を伺った。また、『大高の教育 Vol.14』では、具体的な教育活動が紹介されており、大阪高校の教育力を感じることができた。</p> <p>「育友会」の活動の認知度がなかなか上がらないとの報告もあったが、保護者との連携を深めるには「目玉」の活動が必要なのだろう。</p> <p>相川に移転してきた男子校時代の大高から存じ上げているが、本当に大高は変わったとの評判だ。今の大高には変革の素地(生徒を伸ばす土壌)がある。これをベースに耕して種蒔きをすると、本当にすばらしい芽が出て、伸びていくと感じている。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学び続ける力の育成	<p>(1) 学力の向上</p> <p>ア 実力試験・模擬試験対策の充実</p> <p>イ 補習・補講の充実</p> <p>ウ 夏季学習合宿の充実</p> <p>エ 夏期講座の充実</p> <p>(2) 指導力の向上</p> <p>ア 研修会の充実</p> <p>イ 授業研究</p>	<p>ア ターゲット模擬試験の設定 目標ゾーンの設定 1ヶ月前からキャンペーン実施</p> <p>イ 各学年で計画・実行 成績上位者、成績不振者、実力対策</p> <p>ウ タイムスケジュールの見直し 参加形態の見直し</p> <p>エ 無学年制を基本とし、教師が教えたい内容を提起</p> <p>ア 教師が共に学ぶ場の設定</p> <p>イ デジタル教材の活用研究 イ 他校視察 イ 学内授業見学</p>	<p>ア 具体的目標の提示</p> <p>イ 定期的な実施</p> <p>ウ 参加者の満足度</p> <p>エ パラエティーに富む講座の確保と参加生徒数の増加</p> <p>ア 学期最低1回の開催</p> <p>イ 学内の研修充実 イ 3校以上の視察 イ 年間2回の実施</p>	<p>ア データの分析、共有に工夫必要</p> <p>イ 平成28年度第2学年より年間通じて補講実施予定</p> <p>ウ 会場を変更し、新しい取り組みを増加させた。参加者の満足度が高くなった。</p> <p>エ 各教師が夏期講座に取り組むための共通理解と受講者数の更なる増加が課題</p> <p>ア アクティブ・ラーニングについての教員研修を実施</p> <p>イ (株)リクルートとの合同会議を実施</p> <p>イ 平均2校の視察に留まってしまった</p> <p>イ 年2回実施できた。新しい学内の文化となりつつある</p>
2 問題解決力の育成	<p>(1) 学校行事の充実</p> <p>(2) 帰属意識の向上</p>	<p>ア 文化祭におけるクラス参加の継続</p> <p>イ 体育祭における学年ミックス参加の継続</p> <p>ア クラブ参加率の向上</p> <p>イ 出席率98%のクラスづくり</p> <p>ウ 着こなし指導の継続実施</p> <p>エ 生徒会活動の活性化</p>	<p>ア 工夫度の評価</p> <p>イ 団長を中心とした団対抗の体育祭</p> <p>ア 文化系クラブの発展</p> <p>イ 週単位のブロック指導 月単位の学年指導 学期ごとの保護者面談</p> <p>ウ 節目を逃さない指導 年4回の着こなし指導</p> <p>エ 行事とともに日常生活の見直し</p>	<p>ア 1年：教室内ジェットコースター、ペットボトル作品、動画等展示に見ごたえが多かった。 2年：ダンス、演劇等練習成果が伺えられた。 3年：クラスだけでなく文化祭全体を盛り上げる取り組みが多かった。</p> <p>イ 団対抗は本校の文化として定着、内容の充実が図れた。メッセージ性のある団の演舞は周囲を魅了した。</p> <p>ア 参加率は伸び悩みの状況。男子は目標値を突破した。</p> <p>イ 全校出席率が安定に向かっており、1年では目標値を達成することができた。</p> <p>ウ 年6回の指導ができ、落ち着いた学習に向かう姿勢づくりを目標としている。</p> <p>エ 生徒会活動の柱として、日常生活の改善に取り組んだ。「スキな学校からステキな学校へ」をスローガンに、挨拶、服装、教室の環境整備などに力を入れ、着実に成果を上げている。</p>
3 選択する力の育成	<p>(1) 生涯学習の基盤づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路実現を乗り越えた幅広い学習 ・興味関心を深め、自学自習を楽しむ学習 ・社会的・職業的に自立するための学習 	<p>ア 進路ガイダンスの重層化</p> <p>イ 面談の充実</p> <p>ウ 読書レポート</p>	<p>ア 校内の人的資源と校外の人的資源の活用</p> <p>イ 面談の内容</p> <p>ウ 次のステージに繋げる取り組み</p>	<p>ア ガイダンスの中身を連携強化。校内の人的資本の活用は、卒業生に協力を要請し活用することで、各学年の進路目標に刺った具体的な取り組みを行うことができた。また校外からも各分野の第一線として活躍する人材を講師として招くなど、本校生徒の進路意識向上に努め、成果をあげた。</p> <p>イ 面談において進路希望に沿った具体的かつ有効な進路情報を適宜提供し、進路実現のための学習課題も提示した。結果、担任が面談を通して生徒や保護者と進路課題を共有することができ、家族間でも具体的なコミュニケーションが生まれることで学校の進路支援への信頼につながった。</p> <p>ウ 21世紀スキルなどで目標として掲げられる、今後社会で必要とされる力の向上に努めた。読書レポートやプレゼン発表などの取り組みを通して、自分で考え、表現することの大切さを学ばせ、さらに生徒一人ひとりに粘り強い指導を重ねた結果、それらの質の向上が見られた。</p>